

# 大豆情報第4号

J A む な か た  
北筑前普及指導センター

本年8月1日から8月25日の気象は、平均気温は28.6℃（平年比+1.8℃）、降水量は35mm（平年比31%）、日照時間は222時間（平年比134%）と少雨・寡照傾向で推移しました。

大豆は7月20日前後に播種を終えたほ場では、8月25日頃に開花しています。今後は次のことに注意して栽培管理を行ってください。

## 1. 雑草の除去

ホソアオゲイトウ、アサガオ類などの難防除雑草は結実する前までにできるだけ早めに手取りを行いましょ。う。

イネ科雑草が多い場合はポルトフロアブルによる雑草防除を行ってください。ホソアオゲイトウ、アサガオ類は大豆の開花期になると、除草剤を使えませんので手取りを行いましょ。う。

### 【イネ科雑草】

ポルトフロアブル（200～300ml/10aを水100ℓ、収獲30日前まで）

### 【アサガオ類】

大豆バサグラン液剤（100～150ml/10aを水100ℓ、開花前まで）

### 【ホソアオゲイトウ、ホオズキ等の広葉雑草】

アタックショット乳剤（30～50ml/10aを水100ℓ、開花前まで）

## 2. 病害虫の発生状況と防除

### （1）紫斑病防除

紫斑病は多湿条件で多発します。紫斑病の防除適期は開花後3～5週目頃です。

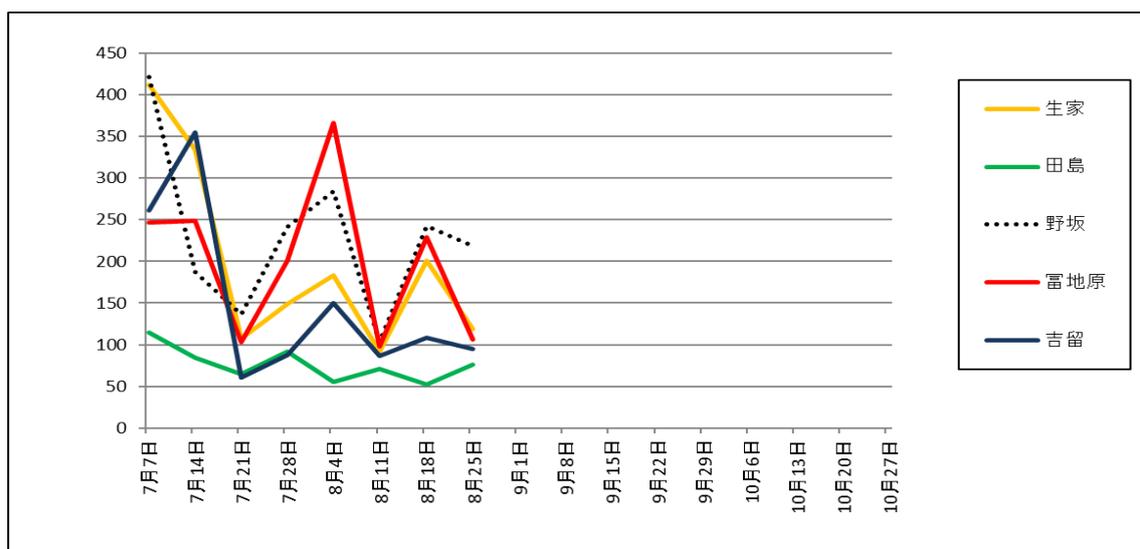
### （2）カメムシ防除

本年は越冬量が多いため、多発生が予想されます。吸汁害による品質低下や青立ち株発生を防ぐため、防除を徹底しましょ。う。また広範囲に移動するため地域で一斉防除を行いましょ。う。

### （3）ハスモンヨトウ

フェロモントラップの誘殺数は下図のように8月10日頃から8月20日頃にかけて増加しており、8月20日頃を発生のパークととらえると9月1日～5日が防除適期となります。

大豆開花後に発生が多い場合は紫斑病・カメムシと同時に2回目の防除を行いましょ。う。



フェロモントラップによる誘殺頭数の推移 (JA・普及センター調べ)

★ハスモンヨトウ、カメムシ類及び紫斑病の防除

防除時期	剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	使用量 (10a 当たり)
9月1日～ 9月5日	粉剤	トレボン粉剤 DL	ハスモンヨトウ カメムシ類	収穫14日前まで	4kg
	液剤	プレバソフロアブル5 (4,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100～ 150ℓ
9月下旬 ～ 10月上旬	粉剤	スミチオンベルコート 粉剤 DL	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ	開花期～若莢期 但し収穫21日前まで	3kg
	液剤	プレバソフロアブル5 (4,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100～ 150ℓ
		スタークル液剤 10 (1,000倍)	カメムシ類	収穫7日前まで	
		トップジン M 水和剤 (1,000倍)	紫斑病	収穫14日前まで	
10月中旬	粉剤	スタークル粉剤 DL	カメムシ類	収穫7日前まで	3kg
	液剤	スタークル液剤 10 (1,000倍)	カメムシ類	収穫7日前まで	100～ 150ℓ

※スミチオンは速効性で残効が短い。

※スタークルは吸汁阻害により、残効が長い特徴がある。スタークルの使用は2回まで。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳